

## Richard Florida 著 『WHO'S YOUR CITY?』 - 著書の概要

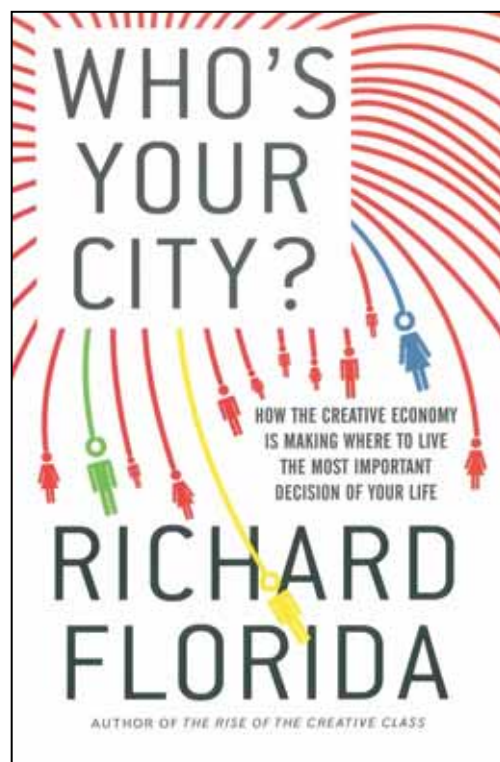
あなたにとっての都市とは - 最適な場所を選ぶために

### 参考資料

[http://creativeclass.com/whos\\_your\\_city/](http://creativeclass.com/whos_your_city/)

(株)都市構造研究センター：北村紀子訳、南部繁樹監訳

2008.12.10



本稿は、リチャード・フロリダ (Richard L. Florida, 1957 年生) 著の「WHO'S YOUR CITY?」(Random House Canada, 2008) に関して、著作の概要を示したものである。

リチャード・フロリダの本著は、これまでに著わした「The Rise of the Creative Class」などを踏まえて、「選ぶべき最適な場所(都市)」に関する実証的な内容を示したものと見える。

それは、「創造的な経済は、どのようにそれぞれの生活にとって最も重要な決定を促す場所(都市)を作っているか。今、生きている場所が重要ではないということはグローバル化時代のマントラであると語る。単身者、若い家族及び子供が巣立った後の親にとっての最良の場所を評価して、ライフ・ステージ毎に都市ランキングなどの資料も提供している。また、資料は4,000万人を超えるアメリカ人に本質的な都市状況を示したデータでもある。」

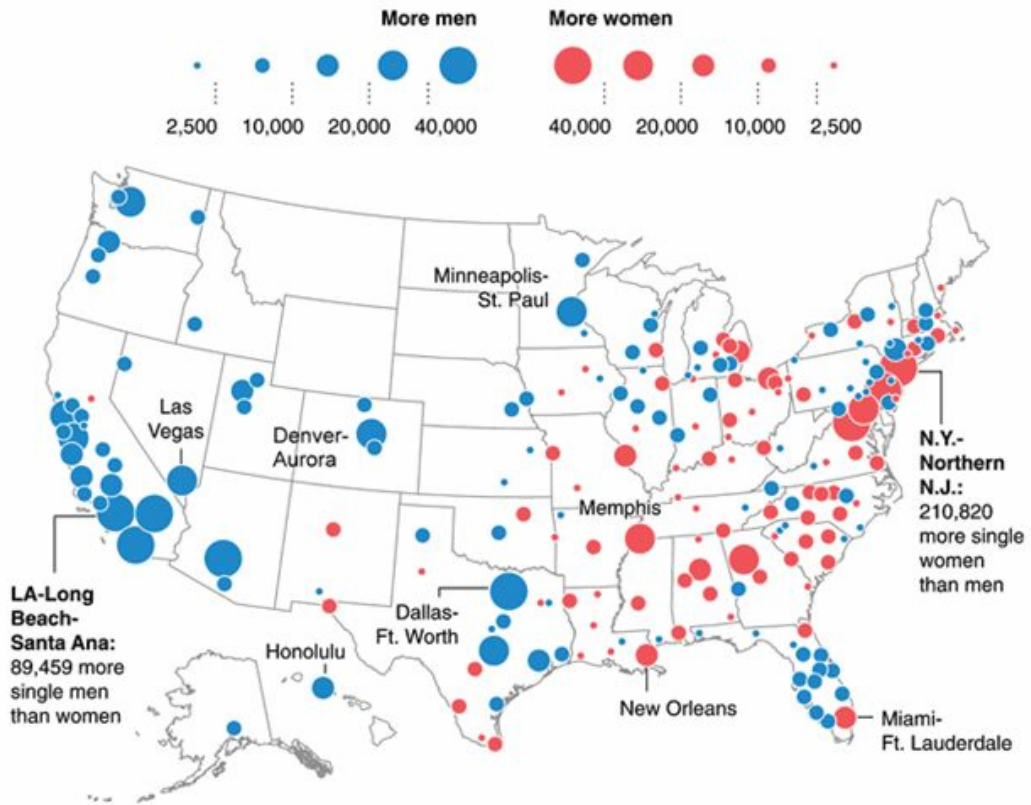
本書は四部構成である。本稿では、「前書き」とでも言うべき章(「1. The Question of where」)を和訳し、本著で著わされている著述概要を理解して頂くこととしたい。

リチャード・フロリダ (Richard L. Florida) 氏は、2007年からカナダ・トロント大学 (University of Toronto's Rotman School of Management) 教授に就任している。

なお、トロント市では、2008年2月に「Creative City Planning Framework」(創造的な都市づくりフレーム)を作成し、持続的な都市の発展を確実なものにする各種の都市づくり展開している。その背景には、R.フロリダ氏の存在を見逃すことが出来ないものと理解する。

(文責：南部繁樹)

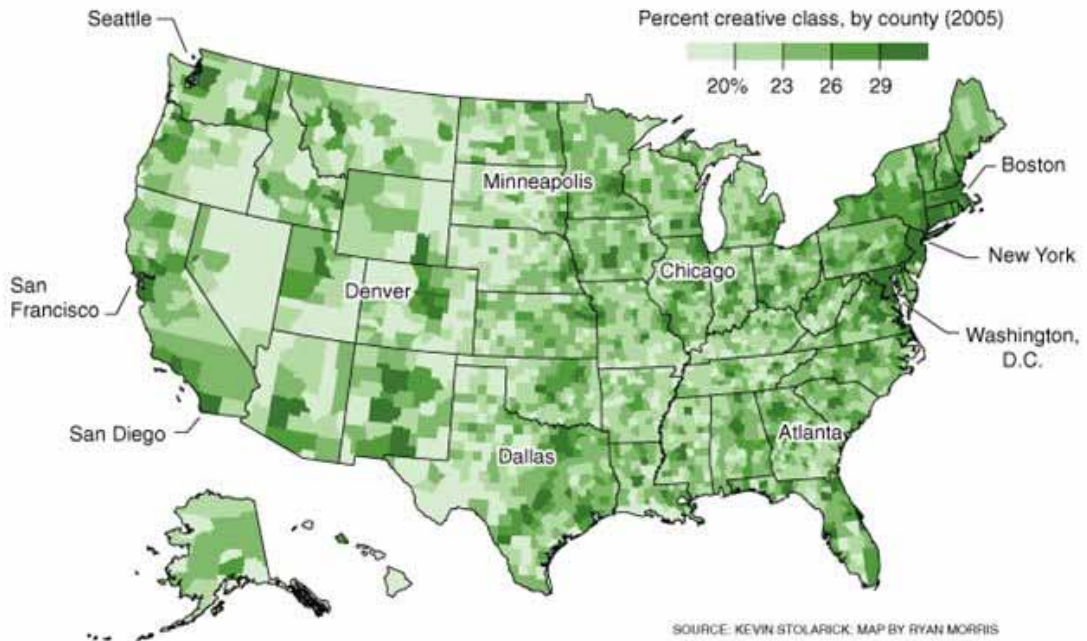
Circles are sized to reflect how many more singles there are in each metro area, by gender



[www.WhosYourCity.com](http://www.WhosYourCity.com)

NOTE: ONLY INCLUDES SINGLES AGES 20-64

SOURCE: 2006 AMERICAN COMMUNITY SURVEY, U.S. CENSUS BUREAU  
ADAPTED FROM NATIONAL GEOGRAPHIC, FEB 2007



SOURCE: KEVIN STOLARICK, MAP BY RYAN MORRIS

[www.WhosYourCity.com](http://www.WhosYourCity.com)

# 書名：「 Who s Your City ? 」

- あなたにとっての都市 - 最適な場所を選ぶために

## 目 次

### 1. 場所の問題 (The Question of where)

#### 第1部 なぜ場所は、重要なのか (Why place matters)

2. スパイキーな世界 (Spiky world)
3. 巨大都市圏の台頭 (Rise of the mega-region)
4. 密集する力 (The Clustering Force)

#### 第2部 場所の富 (The wealth of place)

5. 経済チャンスを求めて移動する人とその土地から逃れられない人 (The mobile and the rooted)
6. インテリはどこへ (Where the brains are)
7. 職業の変化 (Job-shift)
8. スーパースター都市 (Superstar cities)

#### 第3部 幸せの場所の持つ環境 (the geography of happiness)

9. 輝く幸福な場所 (Shiny happy place)
10. マズローの都市を越えて (Beyond Maslow s city)
11. 都市もまた性格を持つ (City have personalities, too)

#### 第4部 私たちが現在住んでいる場所 (Where we live now)

12. 3つの大きな潮流 (Three big moves)
13. 若者と絶えず活動する人々 (The young and the restless)
14. 子供を持つ夫婦 (Married with children)
15. 子どもが独立した後 (When the kids are gone)

## 1 . 場所の問題 (The Question of Where)

私は簡単には動揺しない。そして、何でも乗り越えることができると考えていたい人間である。しかし、2007年7月に”Colbert Report”への出演依頼を受けた時は、うなだれてしまった。その2~3ヶ月前に、丁度、Stephen Colbert氏と対談をしたら、どれくらい気が狂いそうになるだろうと、妻Renaに話したばかりであった。Colbert Report氏は、私を緊張させる番組であったのである。Stephen Colbert氏は機転の効いた鋭いコメントを話し、人なつこく容赦をしない学者的なテクニックはすばらしい。それをかわすのは大変であると思っていた。

彼は、キャラクターに徹することに超人的な才能を持っている。ゲストを質問攻めにし、ゲストが圧倒され、話すことができないままになってしまうという、今や有名となった大袈裟な語り口で右翼的な話し方をする代表的なキャラクターの持ち主であった。

私はいつもその番組を見ており、大ファンではあった。番組で、自らのペースを保つことができないゲストがどんなに恥ずかしい思いをするかを知っていた。しかし、番組出演依頼については、妻と私のスタッフたちの説得によって、出演を決意した。

出演の日、私は妻と同僚のDavid Miller氏、彼の妻Emilyと一緒に、当時住んでいたワシントンDCから特急アセラに乗り、ニューヨークへ向い、そしてスタジオへと到着した。

私は控室で待機している間、友人や番組スタッフと会話を弾ませていた。私たちの行動は、もう一人の出演者である上院議員Ben Nelson氏とはかなり違っていた。彼の方は、ホールで議員スタッフと出演準備をおこなっていた。そして、私たちがあまりにも騒いでいるので、番組プロデューサーはその騒音を遮断するために、私たちの控室ドアを閉めにきた。

しかし、時計の針が分刻みで進むにつれて、私は鼓動が早くなり、汗もかきはじめた。そして、控室からホールの外へと歩き回り、緊張を和らげた。アシスタントプロデューサーが、私の出番に関する概要説明をしにきた時には、とてもナーバスになり全く話す言葉もなかった。Stephen氏も私のところに挨拶にきた。私は、誠実に対応し自分の考えを理解してもらうことに集中するよう心掛けた。

メイクアップの後、私はスタジオに入ることを促された。スタジオのあらゆる場所からエネルギーが伝わってきた。Sex Pistolsの”God Save the Queen”の音楽が流れた。素晴らしい選曲である。その曲は、私がバンドでリードギターを弾いていた遠い昔の頃の高揚感を呼び覚ますものだった。

今やらなければ一生やならないで終わってしまうと自分自身に言い聞かせ、私はしっかりと立ち、深呼吸をした。そして、音楽と共に自分の調子を取り戻していた。私は、楽しむと同時にStephen氏と聴衆は私のことを取る足らない人物であることを既に知っているのだと自分自身に言い聞かせた。

私は、Stephen氏が番組の開始を語る言葉に耳を傾けた。彼は話し始めた。

「先週、ある悪いニュースがありました。それは全米不動産協会が住宅販売の下落を予測したことです。販売価格は前回予測よりさらに深刻な状態となっており、その深刻さは2008年末まで長引くであろうと発表していました。『平常心ではられません。『ゲイの隠れ家に住む』と題した新しい調査によって住宅下落へのソリューションが見出されています。その調査の責任者は、ボヘミアン・ゲイ・インデックスといわれるものを用い、収入や資産価値の変化を測定していました。』「サンフランシスコ電話帳のもう一つの名前のように聞こえるかもしれませんが、みなさん、これは、とても悪いニュースです! この調査によると、芸術的で、自由奔放で(ボヘミアンで)ゲイの人口が、彼らが住む近隣住区やコミュニティの住宅価値を押し上げているというのです。それによると、今日、それらの人はクローブシガレットを吸い、k. d. langの彫刻を彫る傍ら、ボンゴをたたき、あごひげを生やしたビートニック(作家や芸術家などのクリエイティブな仕事をする人)がいるような風景のある家が欲しいんじゃないですかね。」

「その理論では、同性愛者が住みやすい寛容なコミュニティは、解放的な創造性文化作り上げ、それがGoogleやYouTubeまたはShitless Hunks Bagging Groceries.comのようなイノベーションへとつながっていくというのです。』「まあ、個人的には、私の12個のベッドルームのあるチューダー住宅の価値が、数人のオブティシャンが近所に引っ越してきただけで上昇するとは信じていませんけど、あ、でも、多くのオブティシャンがゲイですね・・・」

彼は、改めて私を視聴者に紹介し、そして話題を私に向けてきた。「ゲイの人がどこに住んでいるかを知

るために、彼らに付いていくべきですか」と私に尋ねてきた。

私が、「その通りです」と答えると、彼は、「良かった。私は、既にそうしていますから。今や、私にはそうする理由もありますし」と、すぐに応戦した。

話が行きつ戻りつして3~4分経ったころ、彼は、次の気の利いた言葉で一コマを締めくくった。「私が何を考えているかわかりますか。私は、あなたがゲイだと思っています。ただ、ご自分の家を売りたいポヘミアンアーティストの・・・」

私が笑いを堪えた最善の回答は、「ご存知でしょう。私たちは、ちょうどこの日曜日に家を売ったばかりなのです。妻と共にワシントンからトロントに引っ越すためにです」

彼は、『住宅価格とゲイとポヘミアンの密集の関係』という私の調査の賛否両論の結果に的を絞って番組を進めた。それは、一つのあるグループのような一つの要因で地域の住宅市場を作ることや壊すことがあり、ましてやその経済力や居住者の幸せを決定させるものではないというものであった。

彼は、彼のそのキャラクターに忠実に従い、最良の住宅市場や最もクリエイティブな労働市場を見つけるためにゲイの人々についていくという考えをあざ笑った。

しかし、私の考えは理解はされた。住む場所は、私たちの生活のあらゆる面でますます重要になっている。私たちは、個人の幸せと同様に、もし違っているなら、もっと組織的な方法で場所と自分達の今後の経済の関係について考えてみるべきなのである。

## 人々にとっての大きな決断

あなたが、もし、人生にとって最も大きな決断は何かを教えてくださいと聞かれたならば、何と答えますか。あなたが多数派であれば、おそらく二つのことを挙げるとします。

一つ目は、「私たちの殆んどは、人生の重要な決断の一つは自分のキャリアについて何をしたいかを考えることだと答えるでしょう」。例えば、金で幸せが買えないとしても、多くの人々は、自分の好きな仕事をする事で、豊かさや充実した人生を送れると考えている。私の父は、その考えを私に教え込んだ。「リチャード、おまえは、私のように低賃金で、毎日一生懸命働くような工場で一生を終える必要はない。弁護士か医者になりなさい。そうすれば、重要なことができるし、高収入を得ることができる」と。

多くの人々が、金銭やキャリアの上での成功は、良い教育を受け、そのためには、相応しい学校へ行くことが必須の前提条件であると付け加えるであろう。よって、ハーバード、MIT、スタンフォードやプリンストンを卒業することはセオリーであり、その後の人生を保障してくれるものになるであろう。優れた教育は、素晴らしい仕事、将来の安定的な収入、そして幸せな人生の手段である。私の両親は、大勢の人々と同様に教育マニアだった。例え、自分たちが生活に四苦八苦し、授業料を支払い、教会区への通常の寄付も行った。そして、子供たちの心に、日夜一生懸命勉強すること、良い成績をとること、そして良い大学に行くことの重要性を教え込んだ。

私たちの両親は、通知表に常に目をやり、良い成績を取ると褒美をくれた。つまり収入で生活をしている多くの熱心な両親のように、両親は教育がより豊かな生活へのキーポイントだと考えていた。

第二には、仕事、金銭、そして学校教育は、確かに重要ではあるものの、人生における最も重要な決断は、ふさわしい人生のパートナー 成功を支えてくれ、無条件に愛してくれる人 を選ぶことであると主張する人もいる。人間心理学を研究している人は、その研究において愛情のある夫婦関係は、幸せな人生のキーポイントであると主張する。私の母はこのことを本能的に知っていた。彼女は、多くの大卒者である求婚者を断り、中卒の工場労働者で第二次世界大戦の軍人であった私の父と結婚した。「リチャード!」、彼女は言うだろう。「お父さんと結婚したことは、今までの私の人生の中で最高の決断だったわ。他の男の人の中には、もっとお金を稼ぐ人もいた。だけど、愛こそが本当に重要なことよ。私は、生涯あなたのお父さんを本当に愛していたわ」

疑うことなく、両方のこれらの決断 その何かそして誰か は、私たちの生活に大きな意味を持つ。

しかし、将来における金銭面、幸せ、そして総合的な人生に影響を与える同等の他の決断もある。それ

は、「場所の問題」である。

多分これに関しては、見落としている人が多いように見受けられる。適切な場所を探すことは、よい仕事やパートナーを見つけることと、ここまではいかなくても、同様に重要なことである。

なぜなら、適切な場所を探すことは、そういった選択だけでなく、ここに至るまでの間違いを正すことがどんなに容易か、または難しいかを決定づけるからである。

私たちが選んで住む場所は、人生のあらゆる面に影響を及ぼす。それは、稼ぎ出す収入や、出会う人々、作る友達、選ぶパートナー、そして家族や子供の選択肢を決定付けることもある。

人々は、全ての場所で同等に幸せではなく、ある場所は他よりも良い仕事があり質の高い生活が送れる。場所によっては、より活気のある労働環境や、より良いキャリアの将来性、また高い不動産の価値があり、子育てのための積極的な投資価値がある。

『場所』は、目には見えないが私たちの人生に影響を与える。それは、不確実性やリスクがある海上の安全な島かもしれない。適切な場所を選ぶことで、失業や人間関係が崩れるなどの人生のマイナス面を回避できることもある。対して、否定的なことを長々と話すのは嫌いだ、こういったことも考えなければならぬ。失業するということは常に悲惨なことであり、大切な人との別れはもっと深刻である。しかし、これらと同様に、もし労働市場や出会いの場においての選択肢が殆どない所に偶然に住んでしまったら本当にひどい。活気のある経済状況で、より多くの雇用が創出され、また交際相手に相応しい年齢層の有能な独身者が多くいる場所に居れば、しっかりと自分の足で立て直すことが飛躍的に容易になる。

そのポイント、私たちが住む場所というのは、人生において中心的なファクターであり、他の全て、例えば仕事、教育、恋愛などに影響を及ぼす。既存の労働形態や人間関係を作ることでもできれば、壊すこともできる。新しいドアを開くこともできる。何百万ドルを稼ぐことや家族を持つこと、または独身貴族として生きることを願おうが願うまいが、私たちが心に描く人生の種類に関らず、住む場所を選ぶことは、少なくとも一度はしなければならぬ決断である。多くの人、何度もそれを経験するだろう。アメリカ人は、平均で7年に一度、引越しをする。4,000万人以上の人々が毎年引越しをし、1,500万人が50マイル（約80.45km）または100マイル（約160km）以上のかんりの移動を行う。そのリスクは高く、そして、どこをホーム（故郷）と呼ぶかの決断に迫られた時、私たちのほとんどは、適切な選択をする準備が出来ていない。

もし、多くの人に「どうして、現在住んでいる場所に決めたのか」と聞くと、彼らは、単にそこに行き着いたと言うであろう。

未だ、現代における驚くべきことは、選択肢があるということである。大勢の人々が自分の場所を選ぶための自由と経済的手段がある。ということは、自分達に最も合う場所を探すための信じられないような素晴らしい機会を持っているということである。しかし、この素晴らしい自由は、非常の沢山の選択肢の中から決断することを強られる。

今日、世の中には様々なタイプのコミュニティが存在する。キーポイントは、自分を幸せにする場所、人生のゴールに到達できる場所など、自分に合った場所を探すことである。人によっては、キャリアや財産が幸福感の大部分を占めることもあるが、決して全ての人々がそうではない。私たちは、本当に好きなことをするために法律やエンジニアリング分野などの安定した仕事や社会的に認められたキャリアを捨てる多くの人々を知っている。一方、大学卒業後、自分の家の商売経営を手伝ったり、または家族や友達の近くに住むために故郷に戻る人もいる。こういった人々は、大抵、何かを諦めるべきかを非常に良く知っていて、自ら選択を行っている。彼らは、財産よりも家族やコミュニティを優先させている。そして、多くの人々は、自分たちが住んでいる場所に非常に幸福を感じている。こういった人々は、何よりもコミュニティの本当の価値について良く知っているかもしれない。場所について彼らが大切にしていることは、彼らの人生をその町（都市）で、そして既に良く知っている人の側で生きるという機会についてである。

覚えておくべきことは、場所について言えば、人生においての他の最も重要なことと同じように、全てを手に入れることはできないということである。トレードオフされたり、キャリアのために移動する多くの人々は、家族や生涯の友達の近くに住む喜びを諦めなければならないだろう。一方、家族や友達の近くに住むことを決めた人は、経済的チャンス諦めなければならないかもしれない。

これから説明するために、以下の質問を皆さんによく考えてもらいたい。

1. 現在住んでいる場所をどう思いますか。それは、あなたが本当に望んでいる場所ですか。その場所にいるとエネルギーが満ちてきますか。朝、家から通りに出る時、インスピレーションに溢れていますか、またはストレスを感じますか。その場所は、あなたが本当にになりたい人になれる場所ですか。あなたは、個人の目的達成に近づいていますか。その場所は、あなたが家族や友達に住むことを勧めることができる場所ですか。
2. 今までに引越しを考えたことがありますか。もしそうならば、最初に思い浮かぶ3つの場所はどこですか。その場所は、具体的に、あなたにとってどんなメリットがありますか。それらの場所では、あなたの人生がどのように変わると思えますか。
3. 今までにじっくりと現在あなたが住んでいる場所と上記2の3つ場所を比較したことがありますか。正直なところ、あなたの仕事やキャリアの見通し、または、もしあなたが独身であれば異性との交際に関して、こういったことを僅かでも考えたことや行動したことがありますか。

もし、以上のことをあなたが今までに考えたことがあれば、あなたは少数派である。このような人生における重要な決断の際に、選択肢を検討しない、または十分に考えない人が殆んどであり、驚くべきことである。

おそらく、それは、私たちが十分に情報を得ていないからである。どこに住むかを問題としないのは、グローバル化の時代のマントラである。私たちは、現在、シリコンバレーのオフィスと同様にアスペンにあるスキー場の別荘やプロバンスにあるカントリーハウスから効率的に働くことができる。インターネットや携帯電話があれば、どこに住んでも違いはないのである。

しかし、目覚ましい新技術にもかかわらず、いわゆる『終焉の地』は真新しい話ではない。鉄道は、それがかつて存在していなかった過去の時代と比較し、商業や交通環境に革命をもたらした。

それから、電話は人との繋がりと親近感を作り出した。自動車が発明され、その後に飛行機、そして、今後グローバル化した世界の中心となるであろうインターネットが発明された。これら全てのテクノロジーにより、私たちは混迷した都市から脱出することができ、自らが選ぶ田園生活を可能にしてくれる。都市や文明が肥沃な土地や天然の港または原産物によってだけ決まるような過去は忘れてもらいたい。今日のハイテク世界において、私たちは住みたい場所に自由に住めるのである。場所は重要ではないということが、これらのことで益々一般的なこととなっている。

しかし、それは説得力のある意見であるが、間違っている。今日の重要な経済的ファクターである才能、イノベーションそしてクリエイティビティは、グローバル経済に均一に分布してはいない。そういった経済的ファクターは、特定の場所に集中しているのである。コミュニケーションや交通機関における新しいイノベーションが、経済活動を世界中に拡めることがどれくらい重要であるかは明確である。私が呼ぶところの「クラスタリング・フォース」の信じがたい力は、あまり明確ではない。今日のクリエイティブ・エコノミーにおいて、経済成長の実際的な根源は、才能があり生産性の高い人々のクラスタリングとその集結によるものである。都市や地域に人々が集まった時、新たな概念が生まれ、そして生産性が向上する。クラスタリング・フォースは、私たち一人ひとりの生産性をより向上させ、それにより住んでいる場所全体の生産性がさらに向上し、生産活動や資産の増加を飛躍させる。

クラスタリング・フォースにより、都市や地域は経済成長の真のエンジンとなる。これらの場所が成長し続けることは決して不思議ではない。今日、世界人口の半数以上が都市域に住んでいる。アメリカにおいては、経済総生産額の90パーセント以上が大都市圏によるものであり、さらに5大都市圏は、その内の23パーセントを占める。都市やその近隣を含めた都市圏は、そこに住む何千万人の人々により、数千億ドル、場合によっては、何兆ドルもの経済活動を生み出す大規模な「巨大都市圏」に姿を変えている。

場所は、世界経済や個人生活にこれまで以上に重要となる私たちの時間の中心軸である。

人類史上、殆どどの移動可能な人々のように、私たちは幸運にも自らの国や世界各国に選択可能で、信じられないような多様な場所を持ち合わせている。私たち一人ひとり、異なるニーズや嗜好を持っているが故に、これは重要なことである。幸いにも、私たち一人ひとりが異なっているのと同様に場所も異なる顔を持っている。ある場所には、活況な労働市場が存在し、また、ある場所は教育や安全といった生活の面で優れている。独身者に適した場所もあれば、家族世帯に適した場所もある。また、娯楽に適した場所もあり、一方でビジネスに適した場所もある。保守的な場所もあり、他方では改革的な場所もある。このような各場所は異なる多くのニーズに対応し、それぞれに地域特性や特質を持つ。場所のそういった異なる特性は、変化しにくいものに思える。(これについては、11章を参照のこと)

これは、単に各場所の特質は異なるとを言いたいのではない。場所に関してのニーズは、私たちの人生におけるそれぞれのステージによって変化していくのである。学生や独身である若い時は、多くの人々に多くの仕事があり、キャリア向上の機会があり、夜遊びをする場所があり、独身者の求める活気のある出会いの場などがある刺激的な場所を求める。少し年を取り、結婚をして子供ができると、そのプライオリティーは変化する。その時、私たちは、良い学校や安全な道など家族にとってより良い生活ができる場所を求める。そして、子供が大学生になり、別の場所で住むようになると、私たちのニーズや興味は、また再度変化する。

これらの人生のターニングポイントや多くの場面において、益々多くの人々が、それぞれのニーズに合った場所を選択する機会を持つ。

しかし、どのようにその選択を考え始めればよいのであろうか。およそ50年前、才能ある経済学者であるチャールズ・チボーは、自分の場所の選択に関しての二律背反的な関係を特定させる説得力のある枠組みを概説した。

チボーは、「コミュニティは、サービスや『公共財』の集結、例えば学校、警察、消防署、公園などに特化している」と主張している。異なるクオリティのサービスは、代償や税金として払われた。だから、私たちが住む場所を選ぶ時、物理的な位置・存在だけでなく、そこで受けることができるモノやサービスを考慮して選んでいる。良く知られているように、「人々は、自分たちの特別な嗜好やニーズに合ったモノやサービスを提供できる特定のコミュニティを選び、その土地を離れたり、別の場所に住んだりするだろう」とチボーは述べている。

中には、優秀な学校を好み、そのための資金を準備している人もいるだろう。独身者や子供が既に家から離れている人々は、学校に関してあまり重要視せず、むしろ素敵なレストランや世界的に知られている名の通ったビーチや素晴らしいゴルフコース、または税金が安い場所を求める。チボーのモデルは、コミュニティにおいて、私たちが何を重視するかについての基本的な論理を紹介しているのである。広範囲で場所を選択する場合、重要なニーズやプライオリティを特定し、それらに適合した資金を出してもかまわない、または資金を出すことができる場所を見つける必要がある。

価額といえば、現在私たちが住んでいる場所を選ぶことは、私たちの人生の中で最も高価な買物の一つである。中には、喜びや興奮、またはロンドンやニューヨークのような大都市でしか味わえない機会を欲する人もいる。しかし、そういった場所は高額であるということを理解しなければならない。ロンドン、ニューヨークや、さらにサンフランシスコ、アムステルダム、ボストン、シカゴ、トロントそしてシドニーといった他の都市などでは、並外れて高い。金融関係に勤務している人は、そこでの経済的成功によりニューヨークやロンドンなどでの高い生活費を相殺することができるかもしれない。ロサンゼルスに移動することを選んだ映画制作者や、ミラノやパリに在住しなければならないファッションデザイナー、または、その他の各業界のトップに位置する場所も同様のことが言えるであろう。

しかし、もし、あなたが、あなたの業界において重要ではない場所に勤務していたなら、または、あなたがその業界のトップに位置する場所を求めない人であったなら、どうであろう。高額ではない場所でも住むことができる素敵な場所は他にも沢山ある。あなたが得たい質の良い生活とキャリアのゴールとを比較検討することは、絶対に必要である。

私は、皆さんに最適な場所を選んで頂くのに役に立てばと思いこの本を書いた。25年以上に及び私個人の調査と同様に、その他大勢の方々の調査を皆さんにご紹介したいと思う。

私は、3つの重要ポイントからアドバイスできるように、本書を構成した。



1. グローバリゼーションや『フラット化した世界』など宣伝文句をよそに、現実的に、場所は今まで以上にグローバルエコノミーにとって重要になってきている。
2. 場所は、経済構造や労働市場から、そういった場所が提供する良質な生活やそこに住む人々に至るまで、より多様化し専門化している。
3. 現代は高移動性の社会であり、私たちの殆どが住む場所に関して、発言の機会がより与えられている。

まとめると、これら3つの事実は、あなたの住む場所が、金銭面や仕事の選択にはじまり、友人や未来のパートナー、そして子供の将来に至るまで生活の全てに影響を及ぼすであろうということである。

本書は四部構成をとっている。

第一部では、全体像を扱う。場所はどのようにして、また、なぜ世界経済に重要になり続けるかを見る。グローバリゼーションの真実と私が呼ぶところの新しい経済ユニットである、私が呼ぶところの「スパイキーワールド」である巨大都市圏の機能を図表、マップ、統計などにより紹介する。

第二部は、労働市場の現実や住宅市場のトレンド、不動産価額などの実際の家計問題に関する経済事情が住む場所に対し、どのようにあなたに影響するかを説明する。その中で、ある場所では他の場所よりも経済的優位性がどのように生じているのかを説明し、また、才能があり技術のある人々が新たに小規模な地域へと移り住む現状や住宅市場の浮き沈みの牽引役となる要因などを立証する。また、シリコンバレーやオースティンでのハイテク産業、ニューヨークでの金融、ハリウッドでの映画産業、ナシュビルでの音楽産業など仕事のクラスター化へのトレンドを説明する。

第三部では、住む場所を選ぶ時、何が考慮すべき最も大きな交換条件（トレードオフ）なのか、すなわち、キャリアのゴールに対してライフスタイルやその他のニーズに関して、どのようにバランスをとっていくべきかを問題提起する。また、私たちが住む場所と満たされた幸せな生活における関係についても着目する。これは、私がギャラップ株式会社（Gallup Organization）と共同で行った28,000人を対象とした大規模調査の結果から示すものである。

第四部は、私たちのニーズや嗜好は住む場所とどのような関わりがあるか、また人生の主な3つのステージ、すなわち若くて未婚の時、結婚して子供を持った時、また子供が巣立ち家を出ていった時別に、それぞれのステージでどのように変化するのかに着目する。このセクションでは、私のチームが作成した新しいランキングをまとめている。私は、あなたの人生のこれらメインステージ毎に合った最適な場所を明らかにする。

最後には、実用的な問題も掲載している。それは、あなたに最も合った場所を特定するための基本的なツールを載せている。例え、もし、あなたが喜んで現在の場所に住んでいたとしても、このセッションは、あなたが何を本当に必要としているのかを理解するのに役立つであろう。もし、引越しを考えているのであれば、探すものや探す場所の詳細ガイドが必要であろう。この本を読み終えるまでに、今日のグローバルな経済環境においての場所の重要な役割や、また、あなたにとって的確な場所を選択することによって幸せで満たされた人生を送るためのチャンスを、どのように最大限に活かすかをより理解することができることになろう。

## Appendix A: Mega-Regions of the World

Name (Ranked by LRP)	Population (Millions)	Population Rank	LRP (\$Billions)	Innovation/ Patents (Rank)	Star Scientists (Rank)
Greater Tokyo	55.1	4	2,500	2	24
Bos-Wash	54.3	5	2,200	8	2
Chi-Pitts	46.0	9	1,600	9	14
Am-Brus-Twerp	59.3	3	1,500	22	18
Osaka-Nagoya	36.0	14	1,400	7	22
Lon-Leed-Chester	50.1	6	1,200	25	10
Mil-Tur	48.3	7	1,000	34	23
Char-lanta	22.4	18	730	16	9
So-Cal	21.4	22	710	13	4
Frank-Gart	23.1	17	630	21	12
Barce-Lyon	25.0	16	610	24	20
Tor-Buff-Chester	22.1	19	530	19	7
Seoul-San	46.1	8	500	6	32
Nor-Cal	12.8	28	470	3	1
So-Flo	15.1	25	430	17	17
Fuku-Kyushu	18.5	24	430	23	19
Paris	14.7	26	380	4	16
Dal-Austin	10.4	30	370	14	13
Hou-Orleans	9.7	32	330	15	5
Mexico City	45.5	10	290	35	32
Cascadia	8.9	33	260	10	3
Rio-Paulo	43.4	12	230	32	32
Hong-Zhen	44.9	11	220	28	31
Sapporo	4.3	37	200	27	32
Vienma-Budapest	21.8	21	180	26	29
Tel Aviv-Amman-Belrut	30.9	15	160	31	21
Prague	10.4	29	150	12	25
Buenos Aires	14.0	27	150	33	32
Denver-Boulder	3.7	40	140	5	6
Phoenix-Tucson	4.7	36	140	11	15
Shanghai	66.4	2	130	30	32
Taipei	21.8	20	130	36	30
Lisbon	9.9	31	110	36	28
Beijing	43.1	13	110	29	32
Delhi-Lahore	121.6	1	110	36	32
Glas-burgh	3.8	39	110	18	8
Berlin	4.1	38	110	1	11
Singapore	6.1	34	100	36	27
Madrid	5.9	35	100	20	26
Bangkok	19.2	23	100	36	32

Source: Data by Tim Gulden; analysis and rankings by Charlotta Mellander. For full sources and methodology see, Richard Florida, Timothy Gulden, and Charlotta Mellander, "The Rise of the Mega-Region," *Cambridge Journal of Regions, Economy, and Society*, 1, 1, 2008.

Note: Ranking based on the 40 mega-regions with LRP (light-based regional product) of \$100 billion or more. Rankings for innovations and star scientists are adjusted for population.

注：上記資料は、本著（P.312、P.313）から転載したものである。